仕事にうちこむ、家族を支える　彼女たちが選んだ道とその歩み

企画展

彼女の選択

田端に暮らした女性たち

平塚らいてう
国立国会図書館「近代日本人の肖像」

芥川文

佐多稲子
国立国会図書館「近代日本人の肖像」

四賀光子

林きむ子

池田蕉園
『婦人世界』明治45年3月号 実業之日本社

入場無料

2026年 ※休館日を除く

2月17日 火

5月24日 日

開館時間：10:00～17:00
（入館は16:30まで）

会場：**田端文士村記念館**
JR山手線・京浜東北線「田端駅」北口より徒歩2分

休館日：月曜日（祝日の時は火・水曜）、
祝日の翌日（土・日の時は翌火曜）

【主催・問合せ】
（公財）北区文化振興財団 田端文士村記念館
☎03-5685-5171
【共催】東京都北区

企画展

彼女の選択

田端に暮らした女性たち

明治末期から昭和にかけて、田端には多くの文士・芸術家が集いました。本展では、田端に暮らした女性たちの選んだ道とその歩みをたどります。小説家・佐多稲子や社会運動家・平塚らいてう、日本画家・池田蕉園のように各分野で時代の先駆けとなった人物のほか、夫の創作を支えた芥川文や室生とみ子についても紹介します。自らが選んだ人生を、強くしなやかに生きた田端の女性たちにご注目ください。

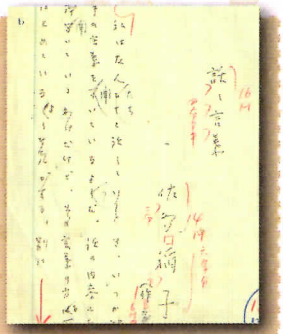
①

芥川文旧蔵 翡翠の帯留（個人蔵）

②

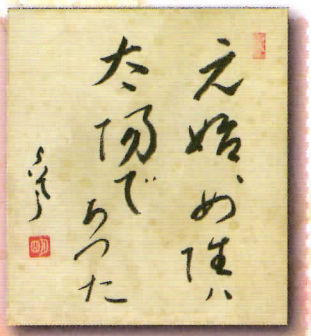
池田蕉園「萬歳」（部分）

③



佐多稲子 原稿「話し言葉」（部分）

④



平塚らいてう色紙「元始、女性ハ太陽であつた」

⑤

室生とみ子『とみ子発句集』
昭和35年3月 私家版

⑥

山田順子

山田順子『流るるままに』
大正14年3月 聚芳閣

⑦

近藤富枝『田端文士村』
昭和50年9月 講談社

近藤富枝

① 夫・芥川龍之介からの中国土産

贈り物をあまりしなかった龍之介から妻・文へのプレゼント。
芥川文・述『追想 芥川龍之介』にも書かれた思い出の一品。

② 文展のおしどり画家、池田蕉園・輝方の合作

「漫才」の語源となった民俗芸能「萬歳（まんざい）」をモチーフにした画幅。
夫・輝方が描いたもう一方の画幅と合わせて展示予定。

③ 佐多稲子が語る言葉の面白さ

「話し言葉」への興味を綴った原稿。田端で詩誌『驢馬』の同人たちと
語り合った稲子は、のちに作家の道を歩んだ。

④ 女性に光をあてた名言！

日本初の女性文芸雑誌『青鞜』に、創刊の辞として
平塚らいてうが寄せた言葉を綴った色紙。多くの人々を勇気づけた。

⑤ 夫・室生犀星編集の遺句集

犀星や家族を支え、病を患ってからも俳句や日記を書き続けたとみ子。
とみ子の没後、犀星は妻の書いたものを集めて、私家版で刊行した。

⑥ 文学の道で生きようとする女性を描いたデビュー作

山田順子の自伝的小説。竹久夢二が本作の装幀を手掛けたことをきっかけに
恋仲となった。順子は夢二や徳田秋声の作品のモデルとしても知られる。

⑦ 田端が文士芸術家村であることを世に出した意欲作！

幼少期を田端で過ごした近藤富枝。膨大な資料と取材により書き上げられた
本書は、田端文士芸術家村を後世に伝える重要な一冊となった。

主催・問合せ

（公財）北区文化振興財団
田端文士村記念館 〒114-8523 東京都北区田端6-1-2 ☎03-5685-5171
JR山手線・京浜東北線「田端駅」北口より徒歩2分 ※駐車・駐輪場は隣接の有料施設をご利用ください。

https://kitabunka.or.jp/tabata/
𝕏 @bunshimura

（仮称）芥川龍之介記念館 ▶▶▶ 最新情報

2027年度、龍之介が暮らした田端に記念館が誕生します。これまで約300件900万円以上のご寄附を賜り、開館準備は順調に進んでおります。皆様の「想い」が形になるまで、あと一歩のご支援をお願いいたします。また、昨秋、建設現場に設置した定点カメラの映像は、建物の「成長」記録として公開予定です。ご期待ください！

詳しくはこちら

工事中の建設現場（2025年12月現在）

【お問合せ】北区役所文化施策推進課 ☎03-5390-0093（平日8:30～17:15）